

CVMによる干潟の経済価値評価の結果（概要）

1. 評価対象

干潟の再生（7年間で1,400haの干潟再生）

※シナリオは、愛知目標に基づき、1978年から2010年までに失われた干潟面積の15%に当たる約1,400haを、2014年から2020年までの7年間かけて回復させるシナリオとした。干潟再生を行う場所については特定しない。

2. 評価手法

調査方法：Webアンケートによる仮想評価法（CVM）調査※

調査範囲：全国一律（地域、性別、年齢等の区切りなし）

本調査目標サンプル回収数：1,000サンプル

本調査実施期間：2014年2月10日～2014年2月12日

※仮想評価法（仮想評価法、Contingent Valuation Method）

アンケート調査などにより、対象者が支払っても構わないと考える金額を尋ねることにより、対象となる環境の持つ価値を金額として評価する手法。回答者に環境改善のシナリオを示し、そのシナリオを実現することに対する支払意思を確認する。

3. 評価額の算出

支払意思額に評価範囲（受益範囲）である全国の世帯数（5,195万504世帯）を乗じて評価額を算出した。

評価対象	有効回答数※ ¹ ／回答数	支払意思額 (1世帯当たり年間※ ²)		評価額 (年間)	評価額 (ha当たり)
		中央値※ ³	2,916円		
失われた干潟面積 の15%に当たる約 1,400haを再生させ ることの価値	873/1,040	中央値※ ³	2,916円	約1,515億円	約7億5,744万円
		平均値※ ⁴	4,431円	約2,302億円	約11億5,096万円

※¹ 有効回答数は、抵抗(温情)回答を除いた回答数

※² アンケートでは1世帯当たり7年間継続して支払うものとして質問した結果

※³ 統計的にYesとNoの回答が半々となる値。政策を事項する際に過半数の支持が得られるかどうかの境界値

※⁴ 統計的に算出した支払意思額の平均値